

第3回TDM-QC研究会

【開催日時】 2018年8月4日（土） 9:00 ~ 16:30

【開催場所】 ヤクルトホール

(〒105-8660 東京都港区東新橋1-1-19 ヤクルト本社ビル)

【プログラム】

9:45 ~ 10:30 一般演題

A-1 ボリコナゾールの併用によりタクロリムスの血中濃度が上昇した一例

○深見晴恵¹⁾、後藤憲彦²⁾、阿知波雅人¹⁾、友杉俊英³⁾、二村健太²⁾、岡田学³⁾、辻田誠²⁾、平光高久³⁾、鳴海俊治³⁾、渡井至彦³⁾

¹⁾ 名古屋第二赤十字病院 医療技術部 臨床検査科、

²⁾ 名古屋第二赤十字病院 腎臓病総合医療センター 移植内科、

³⁾ 名古屋第二赤十字病院 腎臓病総合医療センター 移植外科

A-2 タクロリムス血中濃度測定法の評価

～LC-MS/MS法とACMIA・CLIA・ECLIA・LTIA法の比較、および一次代謝物との交差反応性の検討～

○重松智博、山本奈々絵、田川慎二、福田未音、末次王卓、増田智先
九州大学病院薬剤部

A-3 ACMIA法によるタクロリムス測定試薬TACにおけるEDTA濃度による測定値への影響について

○山内 裕二¹⁾、今村 亮一³⁾、阿部 豊文³⁾ 加藤 大悟³⁾ 市丸 直嗣⁴⁾、石津 弘視²⁾

¹⁾ 特定医療法人 蒼龍会井上病院附属診療所 臨床検査科

²⁾ 特定医療法人 蒼龍会井上病院附属診療所 内科

³⁾ 大阪大学 泌尿器科

⁴⁾ 大阪大学 先端移植基盤医療学

10:30 ~ 12:00 特別セミナー① (ノバルティス ファーマ株式会社 共催)

【テーマ】肝移植におけるエベロリムスに対する期待と使用上の留意点

【座長】江川 裕人（東京女子医科大学・消化器外科）

栄田 敏之（京都薬科大学・薬物動態学分野）

【演者・演題】

総論：江川 裕人（東京女子医科大学・消化器外科）

日本の肝移植医療の現状および課題、そして更なる長期生存を達成するためを考えなければならないこと

講演1：吉住 朋晴（九州大学消化器・総合外科）

肝移植における臨床課題とエベロリムスに期待すること、臨床試験の成績、安全性

講演2：増田 智先（九州大学医学部付属病院・薬剤部）

エベロリムスを使用する上での留意点－TDMの観点から－

12:15 – 13:05 ランチョンセミナー

（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 共催）

【座長】石田 英樹（東京女子医科大学・移植管理科・泌尿器科）

【演者】竹内 裕紀（東京薬科大学・医療実務薬学教室）

【演題】ミコフェノール酸の体内動態を考える

13:15 – 13:30 2018年度総会

13:30 – 14:00 2018年度TDMコントロールサーベイ結果報告

【座長】栄田 敏之（京都薬科大学・薬物動態学分野）

【演者】増田 智先（九州大学医学部付属病院・薬剤部）

14:00 – 14:50 特別講演

【テーマ】検体検査の精度管理の考え方と最近の動向（仮題）

【座長】谷川原 祐介（慶應義塾大学医学部・臨床薬剤学）

【演者・演題】未定

15:00 – 16:30 特別セミナー②（アステラス製薬株式会社 共催）

【テーマ】腎移植におけるタクロリムス薬物血中濃度モニタリングの重要性

【座長】谷川原 祐介（慶應義塾大学医学部・臨床薬剤学）

【演者・演題】

講演1：佐藤 滋（秋田大学医学部附属病院・腎疾患先端医療センター）

タクロリムス薬物動態・移植腎線維化・長期腎機能や生着率に及ぼすCYP3A5 遺伝子多型の影響

講演2：高原 史郎

（関西メディカル病院・腎移植科、大阪大学大学院医学系研究科）

腎移植におけるdn-DSAの重要性

16:30 閉会の辞